



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っている。

発行：誇りと夢・まちづくり日新広報部会
文京5-1-8 日新公民館
発行日：2011年9月20日

日新

荷日新 荷に日に新たに
日日新 日々に新たに
又日新 又日に新たなり
出典「大学」

ゆめ にっしん

地区行事から

第5回ふれあいハイキング

加佐の岬ハイキング

加賀市橋立町。加賀海岸で最も日本海に突き出した美しい岬。小学生9名を含む34名が参加しました。



輝いています☆

南出康照くん(八ツ島5)

(日新小6年)



8月27日、全国小学生陸上競技交流大会(横浜市日産スタジアムで開催)に出場!6年男子県代表として、100メートル予選では13秒15の記録と健闘しました。南出くんは、「緊張したけど大きな会場で走ることができて気持ち良かったです。」と、コメントを寄せてくれました。5年生から陸上の記録会に出ており、現在は、市連合体育大会(9月21日)に向けて一生懸命練習しています。(庄司)

わがまち湊新4自治会

穏やかで賑やかな日々

わがまちを紹介します。

湊新4自治会、総世帯48戸、約110名。

福井商業高校グラウンド南側に位置し、日中は部活の生徒の歓声にこころ踊り、春は朝タウグイスの歌声に癒されています。

7月30日、盛夏の中、乾徳ブロックの1自治会として、第15回夏まつりに参加しました。金魚すくいやヨーヨーつり、焼き鳥・焼きそば・飲み物など夜店コーナーの材料を、役員有志総出で調達、準備に務め、カラオケ、ゲーム大会、とプログラムが進み、今年はOTAIKO座明神公演を実現する事が出来て、盛況のうち酷暑を忘れ楽しめました。

幼馴染み等、普段会えなかった方との親交は照れもあるが、はるかに喜びが勝り、互いに家族の無事と震災を祈りつつ、有意義な時を過ごせ、わがまちへの愛着と感謝を感じることができました。

自治会長 橋本裕之



華麗なるOTAIKOの饗宴

福井県立福井商業高校



夢を現実に ~活力ある学校づくり~

福井商業高等学校 校長 中池 由岐夫

皆さんこんにちは、福井商業高校です。福井生は「文武両道」をモットーに、学業だけでなく、部活動や生徒会活動にも熱心に取り組んでいます。今夏、甲子園に出場した野球部をはじめ、多くの部が全国大会に出場し活躍しています。(写真1)

2度目の全米制覇を果たしたチアリーダー部 JETS は、「明るく、素直に、美しく」を合い言葉に日々、厳しい練習に励んでいます。学校行事や各種大会参加だけではなく、学校外部の人々との交流を求めて、福祉施設や小中学校などでの演技発表活動にも積極的に取り組んでいます。(写真2)

夏休み中に実施した体験入学や体験入部には、県内各地から多くの中学生の皆さんが参加してくださいました。「福井商業高校で学び、自分の夢を実現したい」と、大きな希望を持って入学される皆さんの期待に応えるため、教職員一丸となって、さらなる教育実践を積み重ねていきたいと考えています。(写真1)



おいしい料理とは
▼人はなぜ毎日毎日食事をとるのでしょいか?食事はただ栄養補給だけではありません。その料理の味を楽しむのも人間にとって大きな楽しみ方の一つとなっています。また近年はグルメブームで毎日テレビ雑誌等で料理の話題が出ない日がありません。
▼私事で恐縮なのですが50歳を過ぎてから少し老眼が始まり、食事の時に食べ物も見えにくくなってきました。そこで眼鏡をかけて食事をするのと食材がはつきり見えて今まで通りの味に戻りました。その時に美味い料理とは、決して味を感じただけではなく、いろんな条件が整って初めて美味しい料理として味わえる事に気づきました。▼つまり美味しい料理とは料理の皿の種類、盛りつけの色合いさらには食べる場所の環境、誰と一緒に食事をするかなど、口に入れる前から「料理の味わい」は始まっているのです。▼最近では世界的に日本食ブームとなっております。私も若い時は脂ぎった肉が大好きでしたが、年を重ねるごとに和食を好むようになってきました。日本食は栄養のバランスも良く皿の色、形、盛りつけ、料理の色合いも大変良く考えられております。さらにすばらしいのは和食には季節感がある事だと思います。長寿日本の中でも特に福井県は長寿の県です。美味しい料理をより美味しく楽しむ事は、長い人生を充実したものにしてくれるのではないのでしょうか。

文京6 清水信明

乾徳地区 三寺家
我が家は4世代7人家族です。兄の悠葵(はるき)2歳は「きかんしゃトーマス」が大好きです。妹の史恩(しおん)1歳は大好きな兄の後ろをいつも追っかけています。2人の笑顔に家族みんな癒されています。



堀ノ宮地区 牧野家
4世代6人家族です。今年も緑のエコカーテン(ゴーヤ)が出来ました。暑い夏を家族全員で乗り切ります。宜しくお願いします。



日新愛ファミリー

文里地区 陣内家
成兎・民江・未日呂(みひろ)・未都希(みつき)・可恋(かれん)。いつもにぎやかな仲良し家族です。よく食べて、よく遊んで、よく寝る子どもたちです。

誇りと夢・わがまち創造事業

交通部会

平成22年度からの継承事業として『地区巡回コミュニティバス』について話し合いを重ねてきた。高齢者に優しい、子どもたちにも利用できる、また利便性の良い地区内巡回バスの運行について、課題も多岐を抱えているが、一応の枠組みは完成した。1回の乗車運賃は、市街地を巡回している『スマイルバス』と同じ100円とする。バスの運行路、停留所のプロ案も作成した。また、4月よりコミュニティバスの先進地、鶴コミュニティバス、酒生いきいきコミュニティバスの乗車視察見学を実施し、乗客、運転手に利用状況、利便性、今後の課題について聞いてみた。コミュニティバスは「あったほうがいい」「総論は賛成である」という意見であるが、「いざ利用するか」というと課題も多いと言わざるを得ない。先進地視察結果から運行路、バス停の見直しを行い、より良い日新コミュニティバスになるよう努力していきたい。

一方、日新コミュニティバスが運行した暁には、一人でも多くの方に利用して頂けるのが、我々交通部会の願いでもある。



環境部会

「うわっ 釣れた」「まだ、釣れんのや…」底喰川ウオッチングの一角。8月27日、日新地域子ども塾・子どもの広場では、24組の親子が共に楽しんだイベントでした。環境部会は、このイベントが無事終るよう側面から支援をしてきました。会場の草刈り、みそはぎの手入れ、魚釣りの安全に向けた監視等に努めました。ただ、綺麗にした会場も3日前のゲリラ豪雨で、みそはぎは倒れ濁水で汚くなりました。それでも「魚釣り」に彩りを添えてくれました。早速、公民館で魚拓づくりの体験、その手伝いもしましたが、子供達の真剣な挑戦と親のそれを見つめる眼差しに感動を覚えました。

子供時代に体験したことは何時までも覚えています。だからこそ体験しながらの学習は大切です。魚の生態系と魚拓づくりを共に学んだ貴重なイベントでした。

魚拓 完成!



底喰川 その6 一底喰川も多自然型に一

平成10年度の「ふれあいツアー」は底喰川学習との絡みもあり、福井土木事務所を紹介され「多自然型」河川改修の先進地・名古屋近郊の香流川(かなれがわ)を見学した。一行76名は車2台に分乗。コンクリ護岸もあるが草花も雑草も低木も茂り、魚、鳥も生息する。水際には魚を釣ったり、散策もできる。中州もあり、対岸に飛び石伝いに渡ったりして遊ぶこともできる「人間が造った」香流川である。底喰川もこのような市民が近づける親水空間のある川にできたら・・・と願った。

こうしたことは難しいことではない。もともと川が持っている自然を回復し、水質浄化機能を向上させて、多くの親水空間を確保するだけである。

少しでも自然に近い川造りをしよう、とその後工事では川底の土が両側に積まれて高水路が造られ、そこには市民の手でガマ、ミソハギ、しょうぶ等が植えられた。このことはまた後日に。※多自然型(近自然型ともいう)少しでも自然に近い川造りをする事。



低木、草花、雑草が混じる香流川河川敷で遊ぶツアー一行

文化部会

9月10日「秋の七草観賞とお月見だんご作り」に約40人の親子が集いました。最近は見かけることも少なくなったナデシコやオミナエシ、ススキなど秋の七草がたっぷり花かごに生けられた会場でお花の説明を聞いたり、子どもたちはかわいいうエプロン姿でおだんごを作ったりして、おいしくいただきました。



収集するのひと苦勞の七草

